丁寧な仲介で街の商店を元気に！“地域と一緒に”成長を続ける

商売繁昌の
アイデアと実践

千葉県流山市
㈱南柏リビング
代表取締役 川村 拓也 氏

言葉だけではない“地域密着”で地元を活性化

平成25年6月に創業の㈱南柏リビングは、「地域と一緒に」を企業理念に掲げ千葉県北西部の東葛地域を中心に賃貸･売買の仲介を手掛ける。前職の金融機関で企業の破綻処理や再生に関する業務を担当し不動産処理等にも関わったという代表取締役の川村拓也氏は「不動産事業は地域とつながれる、広がりのある仕事だと思います。前職で東日本大震災の被災地復興に携わったとき、不動産業が果たせる役割の大きさを感じたことも起業のきっかけです」と話す。

“地域と一緒に”をモットーに掲げ地域密着の営業を行う同社だが、創業1～2年目の経営状態は厳しかったという。「最初は地域の一員としてさまざまな活動に参加して、無償で汗をかいていました。まず顔を覚えてもらい、後から不動産会社だと知ってもらったという感じです。「『地域密着という人は多いけど本当に密着しているね』と言ってもらい、そこからだんだんと仕事につながる相談や依頼をいただけるようになりました」と話すのは、同氏の夫人で同社取締役営業部長も務める川村香純氏だ。こうした夫婦が力を合わせ率先して地域を盛り上げる姿勢が功を奏し、3年目には収支が拮抗、4年目以降はプラスに転じたという。

代表取締役の川村拓也氏と取締役で営業部長の川村香純氏

手間と時間を惜しまない対応が新たなお客さま獲得の好循環を生む

そんな同社が常に心がけているのが“丁寧な仲介”だ。「お客さまを連れてきて終わりではなく契約後までを想定して準備をします。当社は事業用物件の依頼が多いため、目的に合った利用が可能か、改修は必要か、その場合どの程度費用が掛かるかなどさまざまな点を調査し、資料も作成します」と拓也氏。また、同社では借り手の思いをオーナーさまに伝える労力も惜しまない。香純氏は「開業を目指す外国人のお客さまがなかなか店舗を借りられずにいたケースでは、その方の生い立ちまで調べて説明、説得しました」と話す。さらに同社では仲介の立場であってもできる限り契約にも同席しているという。「最後まで丁寧に寄り添うことで愛着が湧きますし、トラブルも防げます。二人とも法学研究科で学びなので契約などの法規に詳しいことも強みです。後から紛争などにならないよう項目を追加するなど、契約書の修正をお願いすることもあります」。こうした手間と時間を惜しまない細やかな対応を続けることで、2店舗目を出すときにまたご相談いただけたり、新しい方を紹介してもらえたりといった循環が生まれている。

「より多くのお客さまに希望の物件をご紹介できるよう、自社の管理物件、元付け物件を増やしたいです。個人商店が元気だと街も元気になると思うので、小さいお店でも商売しやすい環境づくりのお手伝いをしていきたいと考えています」と今後について語ってくれたお二人。これからもお客さまに寄り添い、地域の活性化を支え続ける。

ONE POINT CHECK

“ちいき新聞”のライターとして地元の活性化に貢献

香純氏は地元のポスティング型フリーペーパー“ちいき新聞”のライターとしても活躍している。地元を盛り上げるために、地域のお祭りやイベントを取材して記事を執筆しているのだ。こうした地域に根差した活動から生まれるつながりが、不動産業にも生かされているという。

ちいき新聞 流山版。千葉の特産品を販売する「軽トラ市」を香純氏が取材

壁の一角を占める手作りの「お客様の声」コーナーには、さまざまな“商売”をする多くのお客さまからの感謝の言葉が集められている

ホームページにも地域のお店とお客さまの声を紹介し、地元の商店を応援

漫画家サトーユキエ氏にデザインをお願いしたという同社のロゴにも“地域と一緒に”の文字が